

- 調査目的 ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
 ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

我が校の強み・弱み

【教科（国語・数学）に関する調査】

○国語の強み：「知識・技能」の観点では県平均を上回り、全国平均と同程度の正答率となった（資料1）。授業の中で継続して漢字の書き取りや意味調べ、短文作りなどを続けてきた効果の表れだと考えられる。

○国語の弱み：「思考・判断・表現」の観点では県平均は上回ったが、全国平均は下回る結果となった。特に、「書くこと」の区分が低く、文章の構成に関する問いや文章の体裁を整える問いの正答率が低かった。

○数学の強み：「知識・技能」、「思考・判断・表現」の両観点で全国と県平均の正答率を上回った。図形・関数・データの活用の3領域で平均正答率が上回ったことから、基礎的な知識・技能を習得しており、類題に対応できていると考えられる。

○数学の弱み：ほとんどの問題で無回答の割合が全国平均を上回った（資料2）。特に記述式の問題に関しては差が大きく、考え方を説明させたり、記述させたりする活動を多く取り入れることで、改善を図る必要がある。

○理科の強み：全国と県平均の正答率を上回る結果となった（資料3）。特に、「知識・技能」の観点については、出題された問いについて、全国平均を4.3ポイント上回る結果となった。

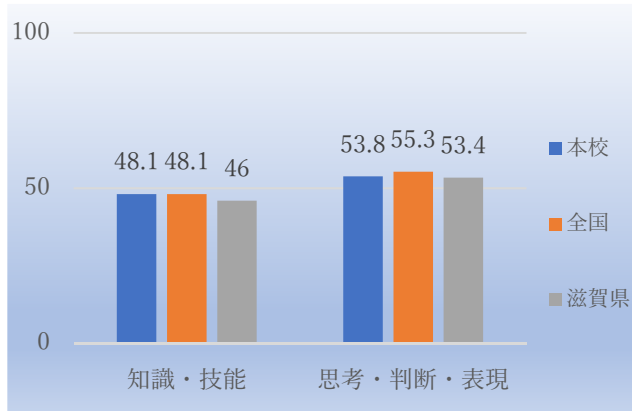
○理科の弱み：短答式・選択式の問いについては正答率が上回ったが、記述式の問いについては、正答率が全国、滋賀ともに平均正答率が下回った。さらには、無回答率も高かった。

【生徒質問紙調査】

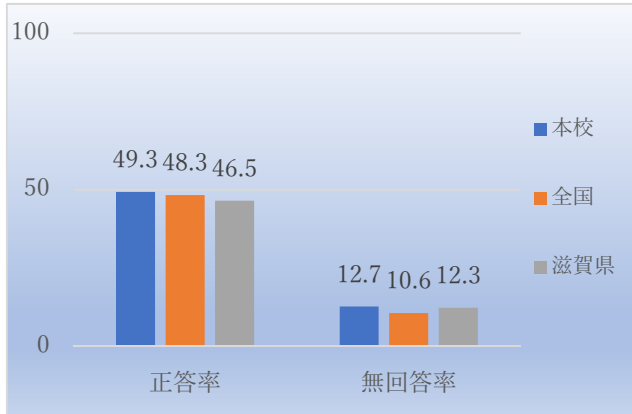
○強み：「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問には昨年度に引き続き、肯定的な回答が多く、全国と県に比べて高い数値となった。休み時間の生徒の見守りや、放課後の教育相談の時間を十分に確保することが結果につながっていると考えられる。

○弱み：学校の授業時間以外の学習時間については、昨年度よりも、30分より少ない・全くしないの割合が増加した。また、2時間以上学習する割合は減少していた。「1,2年の時に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の数値は全国と県に比べて使用頻度に関して、低い数値である。依然として、特定の教師のみが使用しているのが現状であるため、教科間の研修を通して職員全員が使用し、効果的な活用方法を探り、指導力を高めていく。

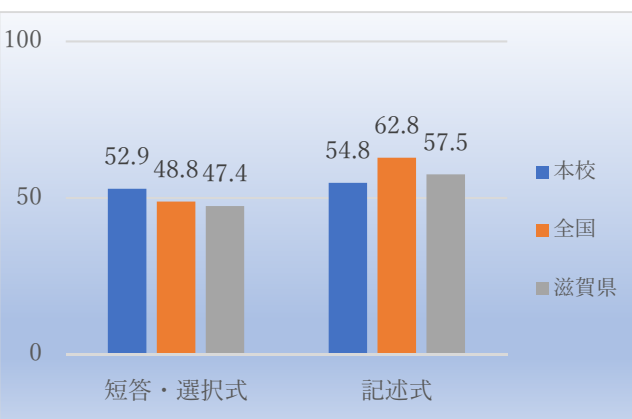
資料1 国語 結果・観点別正答率



資料2 数学 結果・正答率と無回答率



資料3 理科 結果・形式別正答率



【全国学力・学習状況調査をもとにした重点取組事項】

- ◇国語：作文などを扱う際に、文章構成の見直しや、推敲を徹底し、文章をより論理的に整える力を養う。
 ◇数学：基礎的、基本的な学習内容の定着を図り、数学的活動を通してより探究的な学習に力を入れ、考え方などを記述する活動を多く取り入れていく。また、学習内容をいかした課題設定などを行うことで、粘り強く課題に取り組もうとする姿勢を醸成する。
 ◇理科：実験の考察に時間を十分にとり、さまざまな情報から自分の考えを組み立てる学習などを取り入れていく。
 ◇全体：生徒一人ひとりの資質・能力の育成に向けて、ICTを最大限に活用し、これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めていく。さらに、家庭学習充実に向けてのICTの活用も図っていく。また、アウトプットを取り入れた授業展開を通して、生徒の思考力・表現力を高めることを目指す。